

日 本 メ ン テ ナ ン ス 工 業 会 会 報

# IAMSEC

Japan Association of Maintenance and Service Contractors

第 **116** 号

Vol. 37, No. 1 2026.9

Maintenances for the Future

# 目 次

## 【巻頭言】

|                  |      |   |
|------------------|------|---|
| メンテナンスにおけるAIの可能性 | 本田 毅 | 1 |
|------------------|------|---|

## 【JAMSEC News】

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 2026年度 通常総会、講演会、表彰式、懇親会 開催  | 2  |
| 2026年度 事業計画                 | 8  |
| 事業内容 委員会活動                  | 9  |
| メンテナンス・レジリエンスTOKYO2026 開催報告 | 14 |

## 【特別記事】

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 第10回日本メンテナンス工業会表彰・表彰式 | 15 |
| 受賞者紹介                 | 16 |

## 【特集・人材育成】

JAMSECフランジ締結技能講習制度の運用状況（続報）

— 制度発足から5年が経ちました —

|                   |       |    |
|-------------------|-------|----|
| フランジ締結認定講師連絡会リーダー | 近藤 康治 | 43 |
|-------------------|-------|----|

## 【随筆】

|          |                |       |    |
|----------|----------------|-------|----|
| 仕事と人生の変遷 | 株式会社明電エンジニアリング | 野尻 隆二 | 46 |
|----------|----------------|-------|----|

## 【Coffee Break】

勝沼で過ごす、ワインとゆっくり流れる時間

|                   |       |    |
|-------------------|-------|----|
| 横河ソリューションサービス株式会社 | 五十里桂子 | 48 |
|-------------------|-------|----|

## 【特集・プラント業界で活躍するリケジョ】

|               |                 |       |    |
|---------------|-----------------|-------|----|
| 唯一無二の技術者を目指して | 旭化成エンジニアリング株式会社 | 藤田 育未 | 50 |
|---------------|-----------------|-------|----|

## 【メンテナンスの進化を支える者達】

現場を知ることで見えてくる、機械メンテナンスのやりがい

|               |       |    |
|---------------|-------|----|
| エムイーシーテクノ株式会社 | 横田 恭一 | 52 |
|---------------|-------|----|

社会インフラを支える技術者として

|           |       |    |
|-----------|-------|----|
| 株式会社スガテック | 安西 拓巳 | 53 |
|-----------|-------|----|

水インフラの安定稼働を支える技術者として

|                |       |    |
|----------------|-------|----|
| 株式会社明電エンジニアリング | 三浦 雄大 | 54 |
|----------------|-------|----|

信頼されるサービスエンジニアを目指して

|           |       |    |
|-----------|-------|----|
| 株式会社西島製作所 | 佐々木圭斗 | 55 |
|-----------|-------|----|

## 【新規会員のご紹介】

|                                             |    |
|---------------------------------------------|----|
| 株式会社エムズ工業／スリーエムジャパン株式会社／株式会社デュコル／三菱ケミカル株式会社 | 56 |
|---------------------------------------------|----|

## 【特集・技術紹介】

電流情報量診断エッジ型デバイス【TM-EDGEWARE®】

|           |    |
|-----------|----|
| 株式会社高田工業所 | 58 |
|-----------|----|

大型送風機カップリング不具合の補正事例

～シャフト現地研磨によるコスト削減と早期復旧の提案～

|         |      |    |
|---------|------|----|
| 株式会社エスト | 塩崎 強 | 62 |
|---------|------|----|

新製品 3M™ キュービترون™ 3 フラップディスク 1169Fのご紹介

|               |       |    |
|---------------|-------|----|
| スリーエムジャパン株式会社 | 百井 修一 | 64 |
|---------------|-------|----|

## 【会員会社紹介】

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 株式会社エスト／中建プラント株式会社／株式会社東和工業 | 65 |
|-----------------------------|----|

## 【事務局より】

|                    |    |
|--------------------|----|
| 「会報」掲載原稿の公募について ほか | 67 |
|--------------------|----|

日本メンテナンス工業会 会員名簿

日本メンテナンス工業会 頒布資料申込書

## ■ 巻 頭 言 ■



## 「メンテナンスにおける AI の可能性」

本田 毅

日鉄テックスエンジニアリング株式会社  
取締役専務執行役員 機械事業本部長

日本における人口減少、なかでも建設業従事者の減少は、年々深刻さを増しています。

少子高齢化の進行に加え、若年層の建設業離れ、時間外労働規制の強化などが重なり、現場の技能者不足は、プラントメンテナンスの分野においても確実に影を落としています。この傾向は今後も続き、10年後には現在以上に厳しい環境になることが想定されます。

一方で、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、GX（グリーントランスフォーメーション）を軸とした社会構造の転換が進み、新旧さまざまなプラント設備の安定稼働と高度なメンテナンスがこれまで以上に求められています。

限られた人材で、より多くの現場を、安全かつ確実に支えていく——これが、これからのメンテナンス業界に突き付けられた課題です。

では、10年後のプラントメンテナンスの世界はどうなっているのでしょうか。

設備の状態を五感で感じ取り、瞬時に判断する現場技能や経験は、今後も人にしか担えない重要な要素であり、完全な代替は困難です。つまり、技能そのものは「人」が中心であり続けることに変わりはありません。

しかしその一方で、営業活動、見積作成、施工計画・記録、報告書作成、各種帳票管理といった、いわば「メンテナンス関連事務」に費やされている時間と労力は、決して小さくありません。

今後はこの領域をいかに効率化し、現場作業に充てる時間を最大化できるかが、業界全体の生産性を左右すると考えています。

AIは、施工記録や報告書の自動作成、過去デー

タを活用した設備故障の予兆検知、部品交換時期の最適化、作業工程や人員配置の最適化など、すでに実用化が始まっている分野もあります。

これらを活用することで、現場技能者が本来担うべき「現場作業」や「判断」に集中できる環境を整え、限られた人材でも現場力を維持・強化することが可能となります。

さらに今後の発展に期待したいのは、技能伝承へのAI活用です。ベテラン技能者の作業内容や判断プロセスをデータとして蓄積し、AIが解析・可視化することで、これまで属人的であったノウハウを組織全体で共有できる環境が整いつつあります。これは若手育成のスピードと質を高め、世代交代を支える大きな力となるでしょう。

もちろん、AIは万能ではありません。導入にあたっては、現場の理解と共感を得ながら、段階的に進めることが欠かせません。AIはあくまで「人を支える道具」であり、人の経験や知恵と組み合わせさせて初めて、その価値を発揮します。

今後10年で、AIやデジタル技術はさらに進化し、私たちの働き方や産業構造を大きく変えるでしょう。

メンテナンス業界もまた、AIを上手く活用することで、人材不足という制約を乗り越え、社会インフラを支える「高技能者集団」として、より一層その存在価値を高めていくことができるはずです。

人とAIの協働によって、メンテナンス業界はより魅力的で持続可能な産業へ進化していきます。

その未来に向け、挑戦を続けていきたいと考えています。